

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（120L/10a）したところ、散布後77、83日の最大残留量は <0.005 、 <0.005 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（120L/10a）したところ、散布後77、83日の最大残留量は <0.01 、 0.01 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、1.5%粉剤を計4回散布（4kg/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は 0.026 、 0.030 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、1.5%粉剤を計4回散布（4kg/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は 17.8 、 8.52 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回空中散布（0.8L/10a）したところ、散布後47、52日の最大残留量は <0.005 、 <0.005 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回空中散布（0.8L/10a）したところ、散布後47、52日の最大残留量は 0.96 、 2.10 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（80L/10a）したところ、散布後47、52日の最大残留量は <0.005 、 <0.005 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（80L/10a）したところ、散布後47、52日の最大残留量は 0.24 、 0.20 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回空中散布（0.8L/10a）したところ、散布後30日の最大残留量は 0.016 、 0.022 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の140倍希釈液を計4回又は3回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は 0.10 、 0.03 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の140倍希釈液を計4回又は3回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は11.75、1.11 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の300倍希釈液を計4回又は3回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.05、0.05 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の300倍希釈液を計4回又は3回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は5.22、2.36 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を1回散布（100g×10袋/10a）及び2%粒剤を計3回散布（3, 4kg/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を1回散布（100g×10袋/10a）及び2%粒剤を計3回散布（3, 4kg/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は3.64、4.28 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計4回散布したところ、散布後7日の最大残留量は0.122、0.060 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計4回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は3.76、5.42 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計4回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.158、0.088 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計4回散布（150L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は5.04、10.5 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの300倍希釈液を計4回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.070、0.025

ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの300倍希釈液を計4回散布（25L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は1.26、2.23 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）及び40%フロアブルの16倍希釈液を1回空中散布（0.8L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は0.042、0.113 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を3回散布（150L/10a）及び40%フロアブルの16倍希釈液を1回空中散布（0.8L/10a）したところ、散布後7日の最大残留量は2.30、7.36 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回散布（0.8L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は0.008、0.027 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回散布（0.8L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は0.43、1.19 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は0.022、0.046 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は0.66、1.25 ppmであった。

水稻（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は0.031、0.051 ppmであった。

水稻（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（150L/10a）したところ、散布後20、21日の最大残留量は1.12、1.88 ppmであった。

水稻(玄米)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を計4回散布(4kg/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は<0.01、<0.01 ppmであった。

水稻(稲わら)を用いた作物残留試験(2例)において、2%粒剤を計4回散布(4kg/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は3.24、6.87 ppmであった。

②小麦

小麦(子実)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後7~30日の最大残留量は0.084、0.093 ppmであった。

小麦(子実)を用いた作物残留試験(2例)において、40%フロアブルの40倍希釈液を1回空中散布(3L/10a)したところ、散布後19、31日の最大残留量は0.066、0.006 ppmであった。

小麦(子実)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布(120L/10a)したところ、散布後19、31日の最大残留量は0.044、0.008 ppmであった。

小麦(子実)を用いた作物残留試験(2例)において、40%フロアブルの16倍希釈液を1回散布(0.8L/10a)したところ、散布後30、28日の最大残留量は<0.005、0.005 ppmであった。

小麦(子実)を用いた作物残留試験(1例)において、25%水和剤の1,200倍希釈液を1回散布(100L/10a)したところ、散布後30日の最大残留量は<0.005 ppmであった。

小麦(子実)を用いた作物残留試験(1例)において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布(150L/10a)したところ、散布後28日の最大残留量は0.005 ppmであった。

③みかん

みかん(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の500倍希釈液を計5回散布(500L/10a)したところ、散布後14~31日の最大残留量は0.04、0.071 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の500倍希釈液を計5回散布(500L/10a)したところ、散布後14~31日の最大残留量は0.72、0.80 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん(ジュース)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の500

倍希釈液を計 5 回散布 (500L/10a) したところ、散布後 7 日の最大残留量は 0.014、0.02 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 4 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 0.23、0.03 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 4 回散布 (700L/10a)、及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 11.05、1.06 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果実^{註4)}) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 4 回散布 (700L/10a)、及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 1.73、0.27 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を計 2 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 0.20、0.04 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を計 2 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 5.38、1.58 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果実^{註4)}) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を計 2 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 1.42、0.27 ppm であった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

みかん (果肉) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 0.01、<0.01 ppm であった。

みかん (果皮) を用いた作物残留試験 (2 例) において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) 及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回散布 (700L/10a) したところ、散布後 14~42 日の最大残留量は 0.55、0.40 ppm であった。

みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を1回散布（700L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.10、0.07 ppmであった。

みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（700L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.01、0.02 ppmであった。

みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（700L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.42、0.62 ppmであった。

みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（700L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.06、0.13 ppmであった。

みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.02、0.02 ppmであった。

みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は1.68、0.82 ppmであった。

みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.31、0.15 ppmであった。

みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.081、0.052 ppmであった。

みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は1.16、1.56 ppmであった。

みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後14～42日の最大残留量は0.28、0.450 ppmであった。

③夏みかん

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.010、<0.01 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.26、0.23 ppmであった。

夏みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.10、0.08 ppmであった。

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500, 600L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.010、0.007 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500, 600L/10a）10.0%乳剤の750倍希釈液を1回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.22、0.19 ppmであった。

夏みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回（500, 600L/10a）、及び10.0%乳剤の750倍希釈液を1回散布（500, 600L/10a）したところ、散布後45～90日の最大残留量は0.09、0.06 ppmであった。

夏みかん（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後44^{註3)}～87日の最大残留量は<0.005、<0.005 ppmであった。

夏みかん（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後44^{註3)}～87日の最大残留量は0.12、0.11 ppmであった。

夏みかん（果実^{註4)}）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後44^{註3)}～87日の最大残留量は0.038、0.035 ppmであった。

⑤ゆず

ゆず（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後56日の最大残留量は<0.01 ppmであった。

ゆず（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（450L/10a）したところ、散布後51日の最大残留量は0.03 ppmであった。

⑥すだち

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後42日の最大残留量は0.02 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液（500L/10a）を1回散布したところ、散布後42日の最大残留量は0.01 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

すだち（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後56日の最大残留量は0.013 ppmであった。

⑦かぼす

かぼす（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%水和剤の1,000倍液を計3回散布（700L/10a）したところ、散布後65日の最大残留量は<0.005 ppmであった。

⑧だいたい

だいたい（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布（500L/10a）したところ、散布後56～89日の最大残留量は<0.01、0.18 ppmであった。

だいたい（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）及び10%乳剤の750倍希釈液を1回散布（500L/10a）散布したところ、散布後56～89日の最大残留量は<0.01、0.08 ppmであった。

⑨レモン

レモン（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、25%水和剤の1,000倍

希釈液を計 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 42^{註5)}～84 日の最大残留量は 0.69 ppm であった。

レモン(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(500L/10a)及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回(500L/10a)散布したところ、散布後 42^{註5)}～84 日の最大残留量は 0.28 ppm であった。

⑩スイートオレンジ

スイートオレンジ(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 3 回散布(500L/10a)したところ、散布後 42^{註5)}～84 日の最大残留量は 0.62 ppm であった。

スイートオレンジ(果実)を用いた作物残留試験(1例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(500L/10a)及び 10%乳剤の 750 倍希釈液を 1 回(500L/10a)散布したところ、散布後 42^{註5)}～84 日の最大残留量は 0.36 ppm であった。

⑪びわ

びわ(果実)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布したところ、散布後 14～42 日の最大残留量は 0.074、0.100 ppm であった。

⑫キウイフルーツ

キウイフルーツ(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(400L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 0.033、0.013 ppm であった。

キウイフルーツ(果皮)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(400L/10a)したところ、散布後 7～21 日の最大残留量は 41.8、24.8 ppm であった。

キウイフルーツ(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後 1～28 日の最大残留量は 0.16、0.08 ppm であった。

キウイフルーツ(果肉)を用いた作物残留試験(2例)において、25%水和剤の 1,000 倍希釈液を計 2 回散布(400, 500L/10a)したところ、散布後 1～28 日の最大残留量は 0.10、0.06 ppm であった。

⑬もも

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布(138, 500L/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は0.076、0.074 ppmであった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計3回散布(138, 500L/10a)したところ、散布後21~28日の最大残留量は3.56、1.24 ppmであった。

もも（果肉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布21日の最大残留量は0.346 ppmであった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500L/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は11.6 ppmであった。

もも（果肉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500, 300L/10a)したところ、散布後21~42日の最大残留量は0.34、0.19 ppmであった。

もも（果皮）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(500, 300L/10a)したところ、散布後21~42日の最大残留量は8.09、7.40 ppmであった。

⑭なし

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の2,000倍希釈液を計2回散布(400L/10a)したところ、散布後45~60日の最大残留量は0.022、0.024 ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布(400L/10a)したところ、散布後30~60日の最大残留量は0.168、0.156 ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布(400L/10a)したところ、散布後29~44日の最大残留量は0.094、0.062 ppmであった。

なし（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布(400, 625L/10a)したところ、散布後28^{注3)}~56日の最大残

留量は 0.853、0.472 ppm であった。

⑮うめ

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計4回散布（800, 500L/10a）したところ、散布後106、136日の最大残留量は<0.005、<0.005 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計4回散布（500L/10a）したところ、散布後104、132日の最大残留量は<0.01、0.010 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

うめ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布（400, 375L/10a）したところ、散布後43^{注3)}～114日の最大残留量は0.082、0.132 ppmであった。

⑯りんご

りんご（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布（700L/10a）したところ、散布後28^{注3)}～44日の最大残留量は0.18、0.08 ppmであった。

⑰かき

かき（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（500L/10a）したところ、散布後44^{注3)}～60日の最大残留量は0.043、0.184 ppmであった。

⑱すもも

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後28^{注3)}～45日の最大残留量は0.13、0.061 ppmであった。

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、25%水和剤の1,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後28^{注3)}～42日の最大残留量は0.11、0.06 ppmであった。

すもも（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布（400L/10a）したところ、散布後30～51日の最大残留量は0.046、0.056 ppmであった。

すもも（果実）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの1,000